

第1回八幡市行財政改革検討懇談会会議録＜要点＞

○日時：令和6年8月2日（金） 10時00分～12時10分

○場所：市役所本庁舎 5階 会議室5-2

○傍聴者：なし

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 出席者紹介

◆石原和幸委員

◆橋本行史委員

◆古田京子委員

◆壬生裕子委員

◆森田広大委員

4. 委員委嘱

5. 会長選出

→橋本行史委員を選出

6. 会長代理指名

→石原和幸委員を指名

7. 協議・報告事項

(1) 懇談会の公開について

→傍聴要領案のとおり原則公開することです承。

(2) 今後の進め方について

→懇談会の開催回数・開催時期について、年1回、7月下旬から8月上・中旬に開催、別途開催する必要が生じた場合は、追加で開催させていただくこと、実施計画の改定の際には、委員よりいただいた意見を基に、実施計画書の「懇談会による評価」として掲載するとともに、計画への反映を行っていくことについて委員の了承を得た。

(3) 第8次行財政改革実施計画について

【諮問事項①：持続可能な財政基盤の確立】

<委員>

「(1) ブランド開発」について、「ヤワタカラ」認定品の拡充だけでなく、ブランド力の向上が必要ではないか。

<事務局>

まずは認知度の向上が必要であると考えており、ウェブサイト等への掲載、ふるさと納税返礼品への活用、イベント時や駅前での販売を行っている。

<委員>

八幡に来て初めて「ヤワタカラ」の存在を知ったので、ブランド力・認知度向上に向け、オール京都で京都府や他市とも連携していくことが必要ではないか。

<事務局>

認定品の拡充とブランド力向上の両輪で進めていく必要がある。

<委員>

駅前では観光案内所等でPRされているが、電車を降りないと見ることができない。けんこう大使やわたんなどのキャラクターも含め、駅のホームや電車内から見える場所でPRしてはどうか。京阪交野線では駅名看板にキャラクターがデザインされている駅がある。

<事務局>

駅構内は事業者の許可が必要であり、キャラクターについても権利面で課題があるが、ご意見を参考に活用できるよう検討したい。

<委員>

八幡市を知らない方に「これがある場所」と認知してもらえるものがあれば良いと思う。

<委員>

「ヤワタカラ」に限らず、外部の意見も参考に市のイメージを上げていく必要がある。

<委員>

「(2) ふるさと納税制度の活用」の返礼品が注目されるために、何かてこ入れが必要だと感じる。

<事務局>

令和5年度までは、市の魅力発信やヤワタカラの認知度向上の観点からふるさと納税制度を活用していたが、寄附が伸び悩んでいた。今年度からワーキングチームを立ち上げ、商工会とも連携し返礼品の掘り起こしを進めている。

<委員>

クラウドファンディングや企業版ふるさと納税の結果を見ると、金額面では効果があったといえるが、今後どこに力を入れていくか。

<事務局>

返礼品の掘り起こしに加え、企業版ふるさと納税についても、新市長に協賛していただける企業を見つけていきたい。

<委員>

商工会青年部が開発した「八葱（やき）ラーメン」がヤワタカラに認定されたが、製造・販売する場所がなく認知度が低い状況。また、生産ロット数等、開発から販売までのプロセスに課題がある。ふるさと納税返礼品についても、補助金などがあると返礼品開発等がしやすいと考える。

<委員>

アイデアはあっても、各活動をつなぐシステムができていないところに課題がある。

「(3) 多様な自主財源確保の方策」についてはどうか。ネーミングライツは、大規模施設がないため工夫が必要だと思う。自然の景観などにも名付けられたら良いが。

<事務局>

令和5年度はネーミングライツ募集に向けた調査を行い、今年度「生涯学習センター」、「美濃山高区配水場」、「子ども・子育て支援センターすくすくの杜」の3施設について募集することとしている。

<委員>

すくすくの杜は、イメージは良いが他市の方が利用しにくいように感じる。利用緩和などは可能なのか。

<事務局>

一部市外利用者の枠はあるが、八幡市民が利用できる状況を確認することや、安全性の担保など職員体制の検討が必要である。

<委員>

「(4) 未収金対策推進」については概ね効果が出ているが、特に注力すべきものはあるか。

<事務局>

過去と比較すると徴収率は上がってきているが、回収困難な過年度の債権が残っており、課題となっている。

<委員>

回収するにもコストがかかり続ける。どの時点で損金とするのか、基準はあるか。

<事務局>

公債権についてはルールがある。私債権についても未収金対策推進本部により、一定ルールは作られている。債権を回収することにかかり続けるコストと損金とするタイミングのバランスを取る必要がある。

<委員>

「(5) 経済的自立支援の推進」について、強化が必要な取組だが数値結果としては達成できていない状況である。

<事務局>

就労支援プログラムに参加された方については、令和5年上半期時点の数値にはなるが就労率64%ととなっているものの、参加されていない方を含めて65歳までを対象に算出すると、19.8%と低くなっている。

<委員>

「(7) 創業支援の推進」について、あまり創業が行われていない状況についてはどうか。

<事務局>

創業にあたっては長いスパンでの計画が必要であり、相談に来られてから創業に至るまでに時間がかかっている。

<委員>

アメリカでは先に創業して何をするか考えるというパターンもある。仕組みから見直す必要もあるのではないか。意欲ある創業者を増やして、税収の増加につながるような創業支援の効果を高める方法の検討を。

<委員>

「(8) 地域資源の魅力向上と情報発信力の強化」について、写真や動画が効果的であると感じるが、どのように活用されているか。

<事務局>

写真は市公式 Instagram やHPなどで活用しており、動画については YouTube で市公式アカウントを運営し、配信している。最近では「八幡市消防が水難救助訓練やってみた@背割堤」など、観光に限らず各部でコンテンツを作成している。

<委員>

歴史文化資源の公開やモニターツアーの参加者に写真や動画を発信してもらえると良いのでは。ヤワタカラの認知度向上にも繋がると考える。

<委員>

今後は対象を考え、ターゲットとなる層に対する効果的な発信や取組が必要であると考える。

<委員>

「(9) 投資的施策の推進」について、スタディサポート事業とはどのような取組か。

<事務局>

貧困の連鎖を断ち切るという観点からスタートしている為所得制限があるが、学習意欲のある子どもたちに学校以外の学習機会を提供するため、小・中学校で実施している。事業開始から約10年が経過し、当初来ていた児童が現在は教える側で採用されている事例もあり、子どもたちの夢がかなうようにという目的で取り組んでいる事業。

<委員>

やわた放課後学習クラブ学習アドバイザーの年齢制限が18歳から65歳未満までとなっていたと思うが、65歳未満とする必要はあるか。京都市の事例では年齢制限が18歳以上となっており、地域の方が携わっている。高齢者にとっては、「役に立っている」と感じる事が活力になり、健康寿命の延伸にも繋がると考える。

<事務局>

年齢制限については確認する。京都市の事例については、文科省が放課後児童クラブと放課後子供教室を一体型で進めている「新・放課後子ども総合プラン」の進んだ事例かと思う。八幡市については現在別々になっており、今後一体的な運営について検討が必要。

【諮問事項②：市有財産のマネジメント及び有効活用】

<委員>

「(2) 施設管理運営の最適化」について、新庁舎等総合管理業務とはどういったことか。

<事務局>

警備や庁舎管理等を総合して委託することで、業務区分間の連携を強化している。光熱費等の減少はみられるが、令和5年度時点では効果検証の段階まで至っていない。

<委員>

「(3) 施設配置の最適化」①公立就学前施設の再編について、統廃合により児童が溢れることはないか。

<事務局>

統廃合により児童が溢れることはない。公立保育園のニーズは高まっているが、児童の数も減っており上限まで行く状態ではない。公立幼稚園についてはニーズが下がっており、存続が難しい状況。

<委員>

水泳指導の委託については、管理経費の削減という面だけでなく、天候等に関わらず実施でき、指導の質も保たれるため、子どもにとっても良い取組だと思う。

<事務局>

教員の負担軽減にもなり、児童と教員双方にとって良い取組と考えている。今後については、コスト面や委託先にも限りがあることなどが課題であるが、拡充していく方針である。

<委員>

委託により使わなくなった学校のプールを今後どのように活用していくかも併せて検討する必要がある。他県ではビオトープとして活用している事例がある。

【諮問事項③：機動的な執行体制の確立】

<委員>

「(1) 人材マネジメントの強化」②職員研修の充実について、派遣研修とあるが、どこに派遣しているか。自治体DXなどの研修もあるか。

<事務局>

京都府市町村振興協会が実施する研修に派遣している。自治体DXについての研修なども講座の一つとして実施されている。

<委員>

自治体では、新規採用職員が確保し辛くなっていることや、中途退職者が増加している現状があるため、人材マネジメントと働き方改革は非常に大切な取組だと思うが、管理職研修の参加率が低い要因は何か。

<事務局>

要因については確認できていないが、職員のモチベーション等の調査結果を管理職へ示し、メンタルヘルスも含め課員に対するフォローなどの対策を検討している。

<委員>

メンタルヘルスやハラスメント、ワークモチベーションはどの組織でも共通の課題である。相談環境整備など取り組まれているが、医療的なアプローチだけでなくワークモチベーションを踏まえた形となるよう、制度そのものについて見直しや効果検証が必要ではないか。パーパス経営など民間の取組も参考に進めると良いのではないか。

<委員>

ハラスメントのホットラインは当然必要として、若手の育成や接し方について、民間では「ほめ達！」（ほめる達人）などの取組があるので、行政でも参考になるのではないか。

【諮問事項④：人口減少・アフターコロナを見据えた行政サービスのあり方】

<委員>

高齢化、人口減少が進む中で福祉的に手当てが必要な部分と、投資や磨き上げが必要な部分がある。「(1) スクラップ&ビルドの推進」について、見直した補助金等は具体的に何か。

<事務局>

男山地域再生事業の「だんだんテラス事業補助金」、民間保育所や認定こども園の「時間外保育事業費補助金」、仕事・文化体験活動事業の「仕事体験活動補助金」の4つである。

<委員>

市役所や図書館において、ワークスペースやWi-Fiが利用できる場所を設けてはどうか。

<事務局>

図書館についてはスペース的に難しい。新庁舎については、市民に開放しているスペースとして3・4階に市民プラザを設けており、コンセントもあり作業可能である。W i - F i については無料W i - F i があるのでそちらを利用していただけるようになっている。

<委員>

市民プラザはどれくらい活用されているか。

<事務局>

夏休みということもあり小中学生の利用が多い。

<委員>

図書館の機能充実が必要だと思うが、分室をつくることなどはできないか。

<事務局>

過去に検討したことはあり、市内各地に学習スペースを設けるべく、現在学習スペースが不足している地域で夏休み期間を利用し試行的に実施している。

<委員>

「(4) 第3セクター等の運営力強化」については、文化創造や教育推進など、民間では実施にくい、第3セクターだからこそできることに取り組んでもらいたい。

<委員>

「(5) 公共交通の最適化」について、バスが減便しており、終業後に帰りのバスがなく困っているという声を聞くが、どのように受け止められているのか、今後の方針は。

<委員>

バスが少なく、駅から歩くという選択肢になることも多い。

<事務局>

地域公共交通会議の中で議題にはしているが、運転手の確保と収益性に課題があり、コミュニティバスについても現在の運用方法では増便が難しい。市としても交通事業者へ要望書を提出しており、コミュニティバスやわたの路線等についても、今後議論していく必要がある。

<委員>

人口減少化のまちづくりにおいて、公共交通は病院とともに重要な問題であり、収益性等の課題はあるが、検討を進めてもらいたい。

【全体を通しての意見交換】

<委員>

大型施設の誘致という観点からも、二車線道路を増やしてもらいたい。

<委員>

学校図書館を朝から開くことはできないか。昼休みは外で遊ぶため朝に利用したいという声や、学校に行きづらい児童が朝に図書館を利用することで生活リズムが整ったという話を聞いている。

<事務局>

各小学校に図書館司書を配置しており、教員がいなくても利用しやすい環境を整えている。朝の利用については、勤務時間の都合があると思うので確認する。

<委員>

ヤワタカラなども含めた市のPRについて、八幡市出身の著名人に協力してもらえると良いのではないかな。

8. その他

→今後のスケジュールについて説明。「懇談会の評価」について、事務局案の確認を会長に一任することで一致。

9. 閉会

以上